



2021年11月5日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 中 村 超 硬
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 井 上 誠
(コード番号：6166 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 本 部 長 藤 井 秀 亮
(TEL：072-274-1072)

<マザーズ> 投資に関する説明会開催状況について

下記のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

記

○ 開催状況

開催日時	2021年11月5日 15:45 (動画公開日時)
開催方法	決算説明動画の配信
動画掲載場所	自社ホームページ (http://www.nakamura-gp.co.jp/)
動画 URL	http://www.nakamura-gp.co.jp/ir/movie.html
説明会資料名	2022年3月期第2四半期決算 決算説明

【添付資料】

- ・ 投資説明動画において使用した資料

以 上

2022年3月期第2四半期 決算説明

株式会社中村超硬

(証券コード) 6166

業 績 報 告

（単位：百万円）

	前第2四半期	当第2四半期	対前年同期 増減額
売上高	1,375	1,832	+457 (+33.2%)
営業利益 (損失△)	△49	101	+150
経常利益 (損失△)	△52	100	+152
親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (純損失△)	△153	△51	+102

売上高

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比
特殊精密機器事業	381	472	+23.8%
化学繊維用紡糸ノズル事業	988	1,340	+35.6%
電子材料スライス周辺事業	1	10	+718.9%
マテリアルサイエンス事業	3	9	+150.5%
合 計	1,375	1,832	+33.2%

セグメント利益 (損失△)

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比
特殊精密機器事業	20	73	+252.1%
化学繊維用紡糸ノズル事業	174	302	+73.0%
電子材料スライス周辺事業	△188	△210	-
マテリアルサイエンス事業	△76	△77	-
その他 (調整額)	19	12	△38.1%
合 計	△49	101	-

(単位：百万円)

	2021年 3月期	2022年 3月期 (2Q)	増減額
流動資産	4,760	4,734	△25
固定資産	1,261	1,265	+4
資産合計	6,021	6,000	△21
流動負債	3,157	2,584	△572
固定負債	2,348	2,356	+7
純資産	515	1,058	+543
負債・純資産合計	6,021	6,000	△21

主な要因

負債の減少要因：借入金の減少

純資産の増加要因：資本金・資本準備金の増加

(単位：百万円)

	2021年 3月期(2Q)	2022年 3月期(2Q)	ポイント
営業活動による キャッシュ・フロー	612	303	契約負債の増加：817 売上債権の減少：284
投資活動による キャッシュ・フロー	321	△199	有形固定資産取得：△183 有形固定資産売却：△15
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,383	308	株式発行による収入：590 長期借入金返済：△216 短期借入金純減：△48
現金及び現金同等物の 増減額	△453	416	
現金及び現金同等物の 期末残高	3,341	3,443	

2022年3月期第2四半期 セグメント別状況報告

特殊精密機器事業

耐摩耗部品／実装機用ノズル／MR装置

化学繊維用紡糸ノズル事業

化学繊維用紡糸ノズル／関連装置
(連結子会社 日本ノズル株式会社)

電子材料スライス周辺事業

半導体向けダイヤモンドワイヤ／
新型ダイヤモンドワイヤ製造装置

マテリアルサイエンス事業

ナノサイズゼオライト

売上

472百万円 (前年同期比 +23.8%)

セグメント
利益

73百万円 (前年同期比 +251.8%)

✓ 電子部品産業向け実装機用ノズル

「5G」関連分野が市場をけん引
設備投資が活発化

好調に推移

✓ 工作機械向け耐摩耗工具

回復の兆しはあるものの
本格的な受注回復には至らず

低調に推移

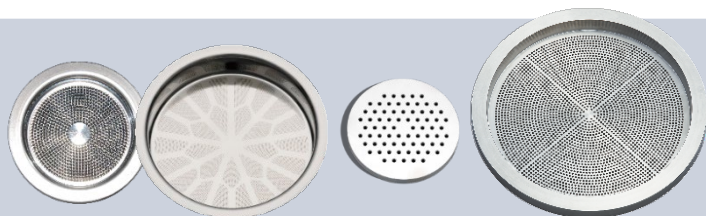
売上

1,340百万円（前年同期比 +35.6%）

セグメント
利益

302百万円（前年同期比 +73.0%）

✔ 既存の化学繊維用紡糸ノズル



好調に推移

✔ マルトブローン不織布製造装置及び不織布関連ノズル等

世界的なマスク需要の高まり ▶

前期に引き続き好調に推移

売上

10百万円 (前年同期 +718.9%)

セグメント
利益

△210百万円 (前年同期 △21百万円)

✓ 半導体向けダイヤモンドワイヤの販売

一部顧客へダイヤモンドワイヤの量産販売開始
+
新たな量産顧客獲得のための有償サンプル出荷

✓ 新型ダイヤモンドワイヤ製造装置(PHX-01)の販売



早期契約締結を目指し、商談を継続
一部顧客において試作ワイヤの評価を実施中

売上

9百万円 (前年同期 +150.5%)

セグメント
利益

△77百万円 (前年同期 △0.5百万円)

✓ 製品開発について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により
顧客における製品開発進捗に遅れが発生

▶ 量産顧客獲得のためのサンプル提供が中心

✓ パイロットプラントについて

11月から
据付工事を開始 ▶ 計画通り

2022年3月期中での
稼働を予定

2022年3月期 業績予想の修正について

南京PJ(ダイヤモンドワイヤ生産設備等の譲渡案件)

検収条件の合意に向け江蘇三超社との協議を継続していたが

両社の主張の乖離が大きく
当事者間の協議による解決は困難と判断

代理人を通じ、江蘇三超社と
「法的な解決」に向けた協議を開始

2022年3月期通期業績予想に織り込んでいた
南京PJに係る収益の計上は困難な状況
(売上高6.5億円、特別利益7.5億円)

2021年4月1日～2022年3月31日

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 4,600	百万円 600	百万円 600	百万円 800	円 銭 79.83
今回修正予想 (B)	4,100	200	200	△350	△32.62
増減額 (B - A)	△500	△400	△400	△1,150	—
増減率 (%)	△10.9	△66.7	△66.7	—	—
前期実績 (2021年3月期)	3,806	167	181	7	0.75

特殊精密機器事業

前回発表予想

900百万円



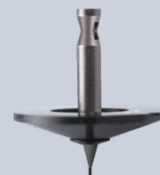
今回修正予想

940百万円
(+40百万円)

✓ 電子部品産業向け実装機用ノズル

引き続き好調に推移する見通し

チップ型電子部品の極小化加速



ダイヤモンドノズル推奨による受注拡大

✓ 工作機械向け耐摩耗工具

半導体、部品・部材の不足による影響が不透明な状況



新規顧客開拓による
受注拡大をめざす

化学繊維用紡糸ノズル事業

(子会社日本ノズル株式会社)

前回発表予想

3,000百万円



今回修正予想

3,000百万円
(変更なし)

✔ 風力発電用ブレード向け炭素繊維用紡糸ノズル



好調に推移する見通し

✔ メルトブローン不織布製造装置



今期中に複数台納入予定

電子材料スライス周辺事業

前回発表予想

650百万円

今回修正予想

140百万円
($\Delta 510$ 百万円)

南京PJに係る売上高6.5億円を
業績予想から除外

修正額

$\Delta 650$ 百万円

- 化合物半導体、窒化ケイ素、サファイア向け
ダイヤモンドワイヤの販売量拡大
- 新型ダイヤモンドワイヤ製造装置
「PHX-01」の収益計上を見込む

+140百万円

マテリアルサイエンス事業

前回発表予想

50百万円

今回修正予想

20百万円
(△30百万円)

✔ 新たな用途展開も含め

量産顧客獲得のためのサンプル提供が中心



新開発 ^{ゼオール} Zeoyal®-HQ をはじめとする

BtoC商品用途への展開にも注力

新規技術開発の進捗状況について

マテリアルサイエンス事業

米粒の大きさの $\frac{1}{4,000 \sim 5,000}$

ゼオライト粉末

粒子サイズ

500 nm (0.0005mm)

当社のナノサイズゼオライト

ハイドロキノン

HQ

メラニン色素の生成を抑制し漂白する働きがある成分として知られている

⚠️ 酸化しやすく光や熱にとっても弱く不安定

保管が困難 **肌への刺激が強い**

不安定なハイドロキノン

肌への刺激を抑え、安定的にハイドロキノンを供給する

- 保管期間が長くなる
- 少しずつ安定的に肌に供給
- 余分な皮脂を取る
- アルカリ性環境に強い
- ナノサイズによるなめらかな質感

ゼオライト固定型ハイドロキノン

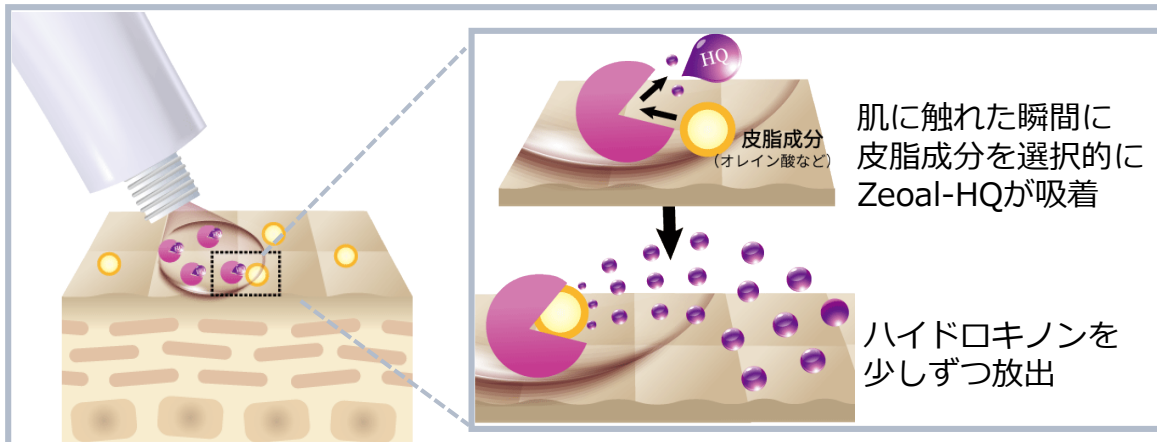
ゼオール **Zeoal®-HQ**

SOAP

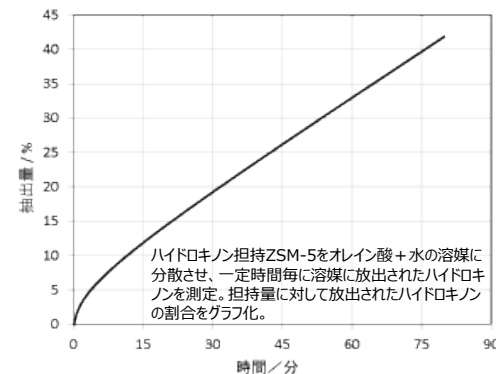
ASTRINGENT

LOREM IPSUM

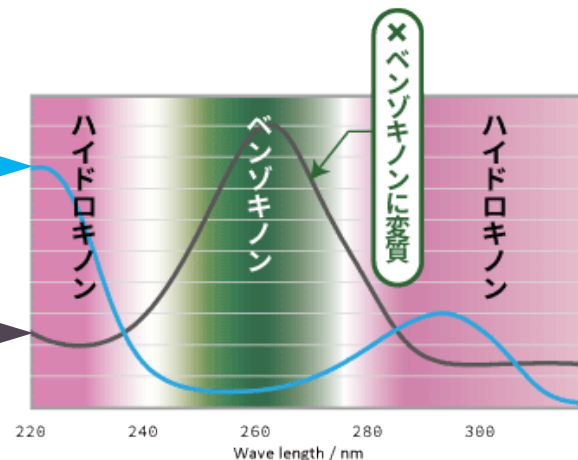
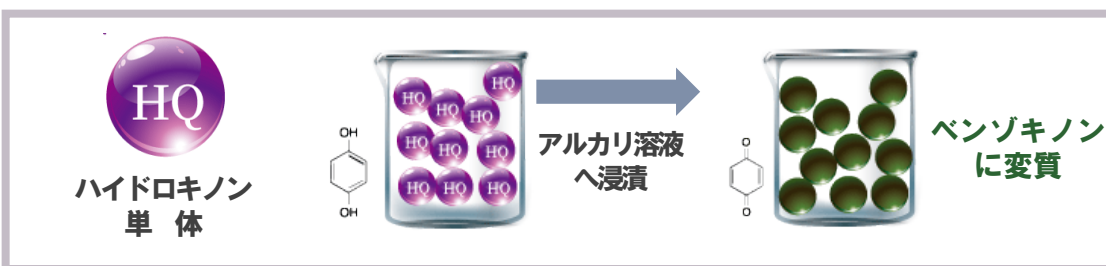
✔ 特長1 / 徐放性



ハイドロキノン放出量の推移



✔ 特長2 / アルカリに強い



アルカリ溶液 (水酸化ナトリウム1mol/l)

ハイドロキノン単体と、洗浄し抽出したZeoal-HQを紫外光220nm~320nmにて測定。

本資料の取扱いについて

- 本資料に掲載している情報は、株式会社中村超硬（以下、当社）の経営指標等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。また、本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 本資料に掲載している情報に関して、当社は細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わず一切責任を負うものではありません。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性等がありますことを、予めご了承ください。